

第28期 決算公告

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

和歌山市中之島2249番地
紀陽リース・キャピタル株式会社
代表取締役社長 山本 敏樹

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	18,709,312,839	流動負債	5,924,317,794
現金及び預金	868,721,652	買掛金	897,543,706
割賦債権	5,384,116,757	長期借入金(一年以内返済)	4,877,085,000
リース債権	493,862,003	リース債務	2,402,100
リース投資資産	12,042,902,703	未払金	9,128,440
賃貸料等未収入金	51,601,074	未払費用	49,666,464
未収入金	2,123,360	未払法人税等	10,764,400
未収消費税	12,253,608	賃貸料等前受金	10,912,300
前渡金	500,000	預り金	33,273,267
前払費用	66,228,718	前受収益	21,498,063
その他の流動資産	875,955	その他の流動負債	3,022,753
貸倒引当金	△ 213,872,991	賞与引当金	9,021,301
固定資産	301,100,257	固定負債	11,382,952,623
(有形固定資産)	(34,108,906)	長期借入金	11,268,660,000
賃貸資産	20,326,834	リース債務	3,591,500
社用資産	13,782,072	退職給付引当金	2,954,800
備品	7,788,472	繰延税金負債	107,746,323
リース賃借資産	5,993,600	負債合計	17,307,270,417
(無形固定資産)	(72,958,362)	純資産の部	
その他の無形固定資産	72,958,362	科目	金額
無形自社資産	64,261,162	株主資本	1,606,978,947
ソフトウェア仮勘定	7,590,000	資本金	150,000,000
電話加入権	1,107,200	資本剰余金	27,911
(投資その他の資産)	(194,032,989)	資本準備金	27,911
投資有価証券(株式)	167,921,500	利益剰余金	1,456,951,036
破産更生債権等	47,939,556	その他利益剰余金	1,456,951,036
預託金	20,177,200	繰越利益剰余金	1,456,951,036
貸倒引当金	△ 42,005,267	評価・換算差額等	96,163,732
		その他有価証券評価差額金	96,163,732
		純資産合計	1,703,142,679
資産合計	19,010,413,096	負債及び純資産合計	19,010,413,096

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他の有価証券	時価のあるもの 時価法 時価のないもの 移動平均法による原価法
----------	------------------------------------

2. 減価償却の方法

賃貸資産	リース期間を償却年数とし、リース期間満了時の処分見積価額を残存価額とする定額法
------	-----------------------------------------

車輛及び備品	法人税法に定める定率法
--------	-------------

無形自社資産	法人税法に定める定額法
--------	-------------

リース賃借資産	リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法
---------	----------------------------

3. 引当金の計上基準

- | | |
|-------------|------------------------------------------------|
| (1) 貸倒引当金 | 債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準に基づき計上している。 |
| (2) 賞与引当金 | 従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当期の負担に係る金額を計上している。 |
| (3) 退職給付引当金 | 従業員の退職金の支給に備えるため、自己都合退職による期末要支給額に相当する額を計上している。 |

4. 収益・費用の計上基準

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) ファイナンス・リース取引に係る売上高および原価の計上基準は、リース料を收受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法により処理している。 |
| (2) 割賦販売取引は、資産の販売等に係る契約の対価の額と現金販売価格との差額を利息に相当する金額と認識し、賦払金を收受すべき時に利息法により計上する方法により処理している。 |

5. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

6. 税効果会計を適用している。